

高美小学校内 TM だより

R8.1.22.NO.26

6年1組の国語の授業におじゃましました。

★ロイロノートで情報を比較★

「おすすめパンフレットをつくろう」の1時間目でした。パンフレットを作った経験はあるけれど、どうやってつくったんだっけ…となっている子どもたちに「割り付け」や「構成」など、重要な既習事項を振り返ることからスタートされていました。そのあと堀本先生は2種類のパンフレットを例示されました。

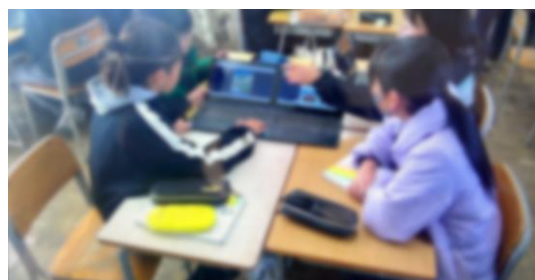
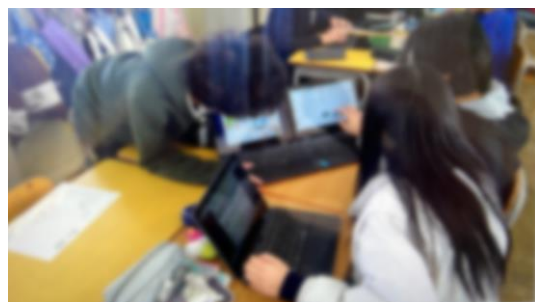
「直島」と「淡路島」のパンフレットを比べることで、パンフレットにはどんな工夫がされているのか教え込むのではなく自分たちで気づくことができるように工夫されていました。比較するためにロイロノートを活用していました。子どもたちが共有ノートに入ると、すでにパンフレットのデータとベン図、学習の計画表が用意されていました。計画については次時でグループごとにたてるので、今の段階では枠だけがありました。

★グループ活動→全体交流★

グループ活動では「グループで話しながら作業をすること」を大切にされていました。一人一台端末を持っているがゆえに、机をくっつけても作業は黙々と行ってしまうことがよくあります。一人ひとりの役割を明確にすることで、話し合いながら作業を進めることができるような環境が作られていました。どのグループでも、時間いっぱいまで積極的に話し合い、二種類のパンフレットそれぞれの特徴と、その共通点について整理していました。整理したものを全体で共有し、それぞれのパンフレットは誰に向けて書かれたものかを考えました。情報量や、字の大きさ、絵や写真の使われ方から、一方は家族連れ向け、もう一方は大人向けに作られていそうだと結論付けました。相手によって表現の仕方がちがうということを、教わるのではなく、自分たちが気づくという形で学ぶことができました。最後に自分たちが1年生に向けてパンフレットを作るということを確かめ、どんなパンフレットをめざしていくのかをグループで話し合いました。

～まとめ～

これまでの経験からも、相手によって伝え方は変わるということは子どもたちにとって当たり前だったかもしれませんが、ですが今回、実際のパンフレットを見比べる経験を通して、具体的にどんなところがちがうのか、より伝わりやすくするための工夫にはどんなものがあるのか、確かな知識になっていったのではないかと思います。教わるよりではなく、自らの体験を通して学ぶことで、定着のしかたも変わるのではと感じました。どんなパンフレットができあがるのか楽しみです。堀本先生、6年1組のみなさん、ありがとうございました。



直島	共通点	淡路島
バスの時刻 ※表紙に書いてある。 ※字が汚れている。 → 見にくい。 ※地図が大きい。 ※わかりやすい。 ※移動手段がわかりやすく書かれている。	※共通語 ※表紙がある。 ※キャッチコピー	子どもと親が一緒に見れる。 ※1つ1つのお店のことをくわしく書いている。 ※大きい文字 ※場所もわかりやすい。 ※写真が大きい。やすい。 ※カラフル ※字のフォントがいろいろ ※子どもが見てもわかりやすい。